

ことであるが、ORの本質は優れた理論や技術でなく、複数の職人的技能者のチームワークにゆだねられているのではあるまいか。この仮説を実証するために、これまでOR学会その他で知り合った同志を糾合し、国際的な

チームワークによって具体的な問題解決と同時に、新しいORのパラダイムを構築することをめざしているのが私の近況である。



## 研究部会報告

### ●意思決定のための会計情報●

#### ●第10回

日時：6月2日(土) 13:30~16:00 場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：12名

- (1) 投資計画書作成マニュアルの紹介(セイコー電子工業株：石井 侃)
- (2) 事業ポートフォリオ戦略と会計・財務情報(慶応義塾大学：大島 諭)
- (3) IFPSの適用に関する文献の紹介(慶応義塾大学：伊藤和憲)

### ●OR/MSとシステム・マネジメント●

#### ●第23回

日時：4月6日(土) 場所：東工大(長津田キャンパス) 出席者：20名

議題：ファクトリーにおける生産管理支援システム  
講師：井上一郎(日本電気)

はじめに生産システムの問題、生産システムの現状の問題とその解決努力について示された。ついで生産システムの評価の重要性が論じられ、生産管理支援システムの考え方、方法が論じられ、実際の生産管理支援システムの組織における導入の方法、その影響についての例が報告された。

#### ●第24回

日時：5月19日(土) 場所：東工大(長津田キャンパス) 出席者：32名

議題：management process model と経営科学  
講師：秋葉 博(神戸商科大学)

ここでは組織の意思決定を広く問題解決活動と同意語と考えることによって、組織の意思決定を解決策の選択にとどめず、広く問題発見フェーズ、実施フェーズを含めることの重要性が論じられた。ついで、このような管

理過程の各フェーズでどのような情報、経営科学技術が使われているかが整理して示された。さらに、実施に関する社会的要因が提示された。ここでは planning と control の区別、問題解決と意思決定の関係、管理過程モデルと革新性についての討議が行なわれた。

#### ●第25回

日時：6月2日(土) 場所：東工大(長津田キャンパス) 出席者：40名

議題：マネジメントシステム開発の創造的過程  
講師：松田武彦(東京工業大学学長)

ここでのマネジメントシステムは広い意味で使われている。したがってこれは広い意味での意思決定システムあるいは問題解決プロセスと同義語と考えられる。ここで提示されたマネジメントシステムは Systems Innovation の機構を重要なサブシステムとして位置づけていること、Problem Formulation を最も大切なサブシステムとしているという2点で特に関心がもたれた。さらに日本の組織風土と合理的思考の関係についての考え方が示された。この報告は本研究部会の基本的考え方に対する委員間の共通問題意識を強めることができた。さらに研究部会の進め方に対する示唆が与えられた。

### ●決定モデルとその応用●

#### ●第1回

日時：4月21日(土) 場所：大阪大学基礎工学部数理教室 出席者：15名

講師：1. 栗栖忠(大阪大学)ある決闘ゲームについて  
2. 坂口実(大阪大学) Bilateral Sequential Game について

#### ●第2回

日時：5月26日(土) 場所：大阪大学基礎工学部数理教室 出席者：15名

講師：1. 中井暉久(大阪大学)「A Search Game with One-Object, Two-Searcher」  
2. 大西匡光(京都大学)「マルコフ過程の適応制御を扱った論文の紹介」

### ●数理計画法●

#### ●第1回

日時：4月28日(土) 14:00~17:00 場所：統計数理

研究所3階セミナー室、出席者：27名

テーマ：整数計画問題の実行可能解の存在性について

講師：林芳男（金融財政事情研究会）

連立不定方程式の非負解の存在性について、整数論、束論を用いた講師の最近の研究成果が報告された。

テーマ：国際通信網における施設計画問題について

講師：増山憲司（㈱KDD）

太平洋地域の国際通信網のマクロモデルが示され、さまざまな将来需要予測の仮定のもとで、海底ケーブルの設置費用が最小となるような施設計画問題を分枝限定法を用いて解いた結果についての説明があった。

•第2回

日時：5月26日（土）14:00～17:00 出席者：23名

場所：統計数理研究所3階セミナー室

テーマ：A model for a decentralized activity

analysis 講師：金子郁容（一橋大学）

中央主導型の経営モデルに対し、各部署での最適解が

全体の経営に反映される新たな分散型の経営モデルが紹介された。

テーマ：Acycloid-LPのPhase Iの抽象概念について 講師：富澤信明（新潟大学）

講師の最新の研究成果であるAcycloidについて説明があり、この概念を用いた、新たなLPの解法の可能性が示された。

•第3回

日時：6月23日 14:00～17:00 場所：統計数理研究所3階セミナー室 出席者：17名

テーマ：A bottleneck block assignment problem

講師：前田英次郎（日本ユニパック）

割り当て問題の特殊な場合である表記の問題を、さまざまな発見的手法を用いて、分枝限定法の探索範囲をせばめて、実用的な計算時間で解く手法と、具体的な問題に対する適用結果について説明がなされた。

テーマ：EPA世界経済モデル 講師：広瀬晴子（経

## 昭和59年度 委員・幹事

本学会の昭和59年度委員・幹事は次の方々です。

### 編集委員会

〔OR誌担当〕

委員長 牧野都治

副委員長 城 信雄

委員 石川明彦、忍田和良、新村秀一、鈴木一行、徳山博子、西村彰一、前野拓也、松田寿子、三留和幸、村中 聖、山下達哉

幹事 岩崎雅彦

〔論文誌担当〕

Editor 阿部俊一

Associate Editor 逆瀬川浩孝、田辺国土、中村善太郎、嶋山由紀夫、森 雅夫

Advisory Board 青木兼一、青沼龍雄、伊理正夫、加地郁夫、斎藤嘉博、千住鎮雄、竹内 清、西田俊夫、西野吉次、長谷川利治、古川長太、宮川公男、本告光男、森村英典、渡辺 浩

### 研究普及委員会

委員長 佐久間 孝

理事 今野 浩、高井英造

委員 大山達雄、香田正人、鈴木敦夫、高橋 誠、

中野一夫、西 敏雄、西野寿一、平林隆一、平尾信正、森戸 晋

### 表彰委員会

委員長 伊理正夫

委員 青沼龍雄、阿部俊一、小田部齊、佐久間孝、刀根 薫、原野秀永、矢島敬二

### IAOR委員会

委員長 川嶋弘尚

委員 上田 徹、川島幸之助、小島政和、中村 理、中森真理雄

### 庶務幹事会

理事 渡辺 忠、柳澤 滋

幹事 浦谷 規、小澤正典、竜野邦明、松井正一

### 会計幹事会

理事 森下啓造

幹事 大河内正明、柴田典男、西村康一

### 国際幹事会

理事 横井 満

幹事 伏見正則

### IFORS関係

Representative 高森 寛

Secretary 横井 満

Contributing Editor (IAOR) 川嶋弘尚

Education Committee 柳井 浩